



BUYER'S GUIDE

ストレージベンダーの 再検討

ハイブリッド環境をよりよく活用するための
総合的ガイド



目次

変化はチャンス.....	3
ストレージに関する現在の市場環境	4
チェックリストで確認.....	5
「データ ファブリック」とは何か.....	6
最重要ユースケースのサポート	7
ビジネスの促進要因	8
優れたメリットを保証する幅広いポートフォリオ.....	9
SANの刷新に関するベストプラクティス.....	10
業界での高い評価	11
ネットアップ ソリューションによるSANの刷新に関するお客様の声	11
適切なデータ ストレージ パートナーの選択	12
次のステップ	13

変化はチャンス

ストレージ ベンダーを評価する際は、次の点について考えてみてください。

- 最適なソリューションに自動的にアップグレードできるか
- ハイブリッド クラウドを簡単に構築できる、わかりやすく完全な移行パスが用意されているか
- 必要な**セキュリティ、パフォーマンス、効率性、スケーラビリティ、柔軟性**を備えているか
- そのベンダーは**イノベーションのリーダー**として知られているか
- そのベンダーは**あらゆる種類のクラウド全般**について専門知識を有しているか
- **専門的かつ幅広いサービス ポートフォリオを提供するサポートのプロ**から支援を受けられるか
- 多種多様な導入モデルに対応する**柔軟な支払いプログラム**が用意されているか

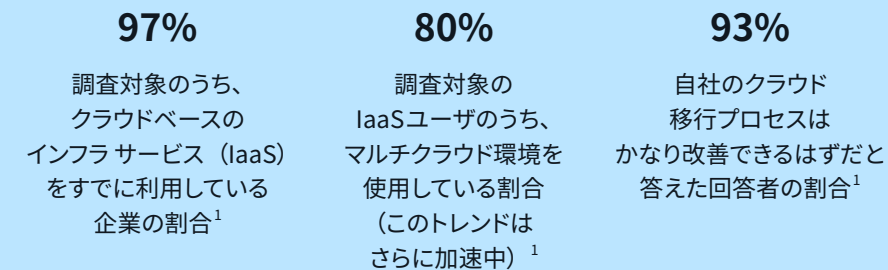
ここで挙げた点のいずれかについて、答えが「正直言って、そうは思わない」であるならば、ぜひ他のベンダーを検討してください。

聞こえのいい条件に惑わされることなく、自社にとって最も重要な購入条件に目を向けることが大切です。このガイドで示す適切な質問に従い、「じっくりと検討し、一度でアクションを済ませる」ことによって、最適なストレージ ベンダーを選択し、データセンターの刷新を成功させることができます。新しいストレージ ベンダーと協力し、オンプレミスのデータセンターをクラウドまで拡張して、柔軟かつスケーラブルなハイブリッド ストレージ環境を構築しましょう。



データセンターの刷新を成功させるには、 マルチクラウド テクノロジーの導入が不可欠

新たなデータセンター ソリューションを購入するにあたり、将来のマルチクラウド環境構築に対応する機能が不可欠だと考えるITの意思決定者はますます増えています。



データセンターとクラウドをサポートし、その両者を接続するハイブリッド ソリューションを提供するストレージ ベンダーは、現在から将来にわたり、多くの意思決定者のニーズに応えることができます。

ストレージに関する現在の市場環境

絶え間ない要件の変化に伴う環境の動的な進化

現在、業界に関係なく多くの企業が、一連の共通する問題を抱えています。皆さんの企業も例外ではないでしょう。たとえば、次のような問題に対処しようとしている方も多いと思います。

- まもなくサポート終了が予定されているSAP環境からの移行
- Oracleから、よりオープンで最新のテクノロジーへのプラットフォームの移行
- 予想以上に高額なパブリック クラウドの利用料金
- 大多数のユーザの（しかも短期間で）仮想ワークスペースへの移行
- バックアップ、アップグレード、ソフトウェアの修正プログラムの適用に長いダウンタイムを必要とするファイルサーバ
- 高額な罰金を回避するためのコンプライアンスに関する諸問題への対応
- Microsoft SQL ServerやExchange、Oracle、SAP、VMware、SAP HANAといった既存のストレージ エリア ネットワーク（SAN）の各種ユースケース、仮想化された基幹業務用のデータベース、独自仕様のアプリケーションなど

ハイブリッド クラウド環境を構築してデータセンターの刷新を図ることにより、ここで挙げたすべての課題を解決することができます。データセンターの刷新方法を早々に決定し、ハイブリッド クラウド戦略にすばやく着手すれば、最初のうちはすぐに結果が出るかもしれません。その一方で、重要なステップを見落としてしまい、後々大きな問題が起こる危険性も高まります。

「じっくりと検討し、一度で移行を済ませる」ことが最善の策だと言えるでしょう。



ご存知ですか？

Enterprise Strategy Groupは最近、IT意思決定者を対象に調査を行い、新しいデータセンター ソリューションを購入する際、どのような条件を必須または重要だと思うかを尋ねました。その結果、次のことがわかりました。

- **92%**が、クラウドへの移行とユニファイド アーキテクチャには同時に対応する必要があると回答¹
- **89%**が、将来的にハイブリッド環境またはマルチクラウド環境を実現できると回答¹
- **88%**が、ワークロードのクラウド移行を急ぐ必要があると回答¹

チェックリストで確認

適切なストレージ パートナーの選択

じっくり検討することで何より重要になるのが、現在のデータセンターに関して基本的な質問事項に答えることです。この答えは、ハイブリッド クラウドを含んだ最新のテクノロジーの観点で、自社のデータセンターがどのレベルにあるのかを理解するのに役立ちます。

1

既存のデータセンターによって、業務の負担が増えていないか？現在のストレージ ベンダーが、環境を複雑にする原因になっていないかを考えます。たとえば、複数のプラットフォームや多数のデータ管理ソリューションを併用していたり、ライセンス契約や保守契約が複雑で重複が生じたりしていないかを確認しましょう。

2

データのサイロ化はビジネスにどのような影響を及ぼしているか？現在のストレージ ベンダーのハードウェアを見直し、相互運用性のない複数の製品が提供されていないかを確認します。そのアプローチのためにデータがサイロ化し、個別の管理が必要になることによって、全社的なデータの共有が阻害されていないかどうかを考えましょう。

3

ストレージ ベンダーが原因で、運用停止を伴うプラットフォーム移行を何度余儀なくされたか？また、使用中のストレージ プラットフォームはいつまで使い続けることができるか？ストレージ ベンダーが不要になった製品をたびたび廃止することによって、幾度となく運用停止を伴う移行作業を強いられていないか考えてみてください。

4

環境をクラウド化するにあたって、ソフトウェア ライセンスの追加購入に関し、現在のストレージ ベンダーはどのような要件を提示しているか？既存のストレージ ベンダーのクラウド戦略を見直し、ソフトウェアのライセンス料金を多重的に請求される可能性がないか確認しましょう。

5

現在のデータセンターのテクノロジーを評価した場合、業界全体の傾向と比べてリードしているか、それとも遅れているか？現在のストレージ ベンダーの製品について、他社の製品の「後追い」ではないかを考えてみましょう。現在のベンダーは、新しい製品やソリューションのリリース日を先延ばしにし続けていませんか？

6

自前のクラウドとデータセンターを比較した場合、どのくらい類似性があるか？自称「プライベート クラウド」には、実はデータセンターと同程度の機能しかない可能性があります。特定のプラットフォームに対する、ロックインが発生していないかどうかを確認しましょう。

7

自社のクラウド戦略には、どのくらい柔軟性があるか？ワークロードの移行がサポートされるかどうかを確認しましょう。エンタープライズレベルの特に重要なアプリケーションやワークロードでも、必要に応じてクラウドに移行できるでしょうか？

「データ ファブリック」とは何か

データ ファブリックはオンプレミス環境と複数のクラウド環境をまたいで構築されるアーキテクチャで、さまざまなデータ サービスを通じ、多くのエンドポイントに一貫した機能を提供します。各種クラウドとオンプレミスのデータセンターにわたってデータ管理を統合し、簡易化することにより、データ ファブリックは企業のデジタル変革を加速させます。データ ファブリックはハイブリッド クラウドによる一貫した統合データ サービスを提供するために設計されており、データの可視化と分析、データのアクセスと管理、データの保護とセキュリティを実現します。

ネットアップ テクノロジを活用してデータ ファブリックを構築すると、データの威力をフル活用してビジネス ニーズに応え、競争上の優位性を獲得することが可能です。ネットアップのデータ ファブリックには次の特長があります。

- ハイブリッド クラウドの利点を有効に活用
- 複数のクラウドを使用したハイブリッドな環境を実現
- 統合データ管理によってストレージを刷新



最重要ユースケースのサポート

仮想化やコンテナ、統合といった重要な用途のためにソリューションを提供するストレージベンダーが数ある中で、ネットアップはトップ企業として認知されています。

No.1

仮想化

ネットアップの仮想サーバインフラソリューションは、既存サーバの最大限の有効活用を後押しします。画期的なパフォーマンスの高さを誇るネットアップのフラッシュストレージシステムを基盤とし、応答性に優れた仮想サーバインフラを構築することで、データへのアクセススピードが飛躍的に向上。運用を継続したまま、きめ細かい仮想インフラを数ペタバイトまで拡張でき、複数のワークロードへの共有アクセスに必要なパフォーマンスを確保します。

No.1

コンテナ

ネットアップはコンテナ技術を通じ、あらゆる場所のすべてのアプリケーションに永続的ストレージと管理の手段を提供するべく、各種ツールと最新の機能の開発に鋭意取り組んでいます。この取り組みの主な例は、NetApp Trident™の開発です。Tridentにより、コンテナ化されたアプリケーションに対して、必要に応じて随時、永続ストレージを簡単に割り当てられるようになりました。Kubernetes、OpenShift、Docker EE、Rancherなどの人気のコンテナプラットフォームとTridentを併用することで、DevOpsワークフローをスピードアップできます。

No.1

統合

業界をリードするエンタープライズデータ管理ソフトウェア、NetApp ONTAP®を使用すると、フラッシュやディスク、クラウドを活用したスマートかつ強力で信頼性の高いストレージ環境を構築し、将来的な要件にも対処できるようになります。また、パフォーマンスや容量、セキュリティの要件が異なる複数のワークロードやテナントで同じ統合インフラを共有できるため、時間の節約とコストの抑制につながります。ONTAPを使用すれば、あるテナントパーティションのアクティビティが別のテナントに影響を与えることはありません。マルチテナンシーでは、1つのストレージクラスを複数のセキュアなパーティションに分割し、それぞれの権限と許可に応じて管理できます。

ビジネスの促進要因

どのようなメリットの達成を期待するか？

新たなストレージ ベンダーを検討する際は、次のような特長を目安とするといいいでしょう。

ビジネスと個人生活の簡易化に貢献

ネットアップ テクノロジによるデータ ファブリックは、現在だけでなく長期にわたって各アプリケーションに最適なデータ プラットフォームを提供するため、ストレージへの投資をシンプルにし、財務面のリスクを最小限に抑えられます。ネットアップは、ストレージのコスト、リスク、パフォーマンスの最適化を後押しします。NetApp Active IQはネットアップストレージの問題にプロアクティブに対処し、ストレージの利用を簡単に最適化するためのデジタル アドバイザです。Active IQでは、多種多様なインストール ベースから収集した利用統計情報を活用することで、人工知能（AI）と機械学習（ML）の高度なテクニックを通じ、ストレージ環境のリスクを軽減して、パフォーマンスと効率性を高めるための機会を明らかにします。そして、Active IQは対応策を指示したガイダンスと具体的なアクションを提示します。この「実践的な分析情報」によってストレージの管理作業が容易になり、ストレージの可用性の向上とセキュリティの強化、パフォーマンスの向上が促進されます。

さらに、NetApp Cloud Managerを使用すると、サイロ化した複数のストレージ システムを集約し、単一のコンソールから一元管理できるようになります。オンプレミスはもちろん、AWS、Azure、Googleの各クラウド内で運用される、NetApp ONTAPを実行する複数のストレージ システムの管理が可能です。NetApp Cloud Managerが備えるシンプルなプロビジョニング ツールは、IT管理者によるビジネス目標の達成を支援します。また、社内外の顧客に最適化されたストレージ容量を割り当てる、容量の自動拡張もサポートされます。

データのサイロ化の解消

クラウドの利用は今や常識です。ネットアップではこの点を踏まえ、お客様の繁栄を後押しするため、オンプレミスとクラウド内の両方でシームレスに連携するハードウェア、ソフトウェア、サービスをベースにソリューションを構築しています。ネットアップ ソリューションを使用することで、世界中の従業員があらゆる企業データにいつでもアクセスできるようになり、手持ちのデータを資産として最大限に活用することができます。

更新、アップグレード、移行の自動化

ネットアップ ソリューションでは、オンプレミスとクラウド内のインフラの管理を確実に自動化できるため、データ移行とデータセンターの刷新の手間を省き、効率化することができます。

クラウドへのシンプルな移行パスを実現

ネットアップ ソリューションは広範なクラウド プロバイダをサポートしているため、幅広いパブリック クラウド サービスの中から最適なものを選択し、自社のデータセンターと接続することが可能です。ネットアップなら、ビジネス目標に応じて最適なパブリック クラウドを選択できるため、コストやスケーラビリティ、柔軟性、セキュリティ、可用性に対する要件を確実に満たせます。

業界をリードするテクノロジーとソリューションを提供

クラウドならではの利点を有効に活用できるよう、ネットアップではクラウド ネイティブなソリューションを提供しています。ネットアップのソリューションは世界有数の企業でも採用されており、パブリック クラウドとオンプレミス環境を接続することで、クラウドのメリットをフルに引き出すために活用されています。ネットアップを選択すれば、クラウドに完全対応したソリューションが確実に手に入るだけではありません。アプリケーションのライフサイクル管理のための新しいソリューションが定期的にリリースされ、機能の追加や更新が継続的に行われます。

最高レベルのセキュリティの提供

ネットアップのハイブリッド クラウド ソリューションではセキュアなデータ アクセスとコンプライアンスが常に維持されるため、データに関する法令違反とそれに伴う罰金のリスクが軽減されます。クラウド内のデータは組み込みのセキュリティ機能によって、データの侵害や損失、破損のリスクから保護されます。

柔軟なクラウド戦略の策定

ネットアップのハイブリッド アーキテクチャでは変化への適応性を重視しています。そのため、柔軟性とスケーラビリティが高く、ビジネス要件の変化に合わせて、随時戦略の方針を転換できます。たとえば、優先度やニーズの変化に応じ、データとワークロードをオンプレミスからクラウドに移行したり、元に戻したりすることも可能です。

優れたメリットを保証する幅広いポートフォリオ

ネットアップの幅広い製品 / サービス ポートフォリオを基盤にハイブリッド ストレージ環境を構築することで、お客様には次のようなメリットがあります。

- **統合**：NetApp Global File Cache、NetApp Cloud Volumes ONTAP、Azure NetApp Filesのほか、NetApp Cloud Backup Service、NetApp Cloud Compliance、NetApp Cloud Volumes Server for Google Cloud / Amazon Web Servicesを使用することで、ハイブリッド環境全体にわたって、すべてのデータを統合できます。
- **保護**：NetApp Cloud Backup Serviceを有効化するだけで、非構造化データを簡単に保護することができます。CommVaultやRubrikとネットアップとの提携によって、この機能はいっそう強化され、NetApp Cloud Complianceによって、コンプライアンス要件が確実に満たされます。
- **シンプル化**：VDI環境の管理の簡易化には、数千人のユーザの導入と管理を自動化するネットアップ仮想デスクトップ サービスが役立ちます。また、NetApp Global File Cacheを使用し、統合されたデータをフルに活用するとともに、NetApp Cloud Backup ServiceとNetApp SaaS Backup Serviceでデータを簡単に保護できます。

コスト削減：次の機能を使用することで、クラウドのコストを抑えられます。

- NetApp Cloud Volumes ONTAPの圧縮機能により、ストレージの消費量が最大で**50%**抑えられます²。
- NetApp Global File Cacheで、分散したストレージの管理コストを最大**70%**削減できます³。
- ネットアップの仮想デスクトップ サービスで、VDIインフラ コストを最大**50%**カットできます⁴。
- Spot by NetAppによって、仮想マシン（VM）関連の経費が最大**90%**削減されます⁵。
- Keystone™は柔軟な支払いソリューションとクラウド ストレージ サービスのポートフォリオで、現金による初期投資を最小限に抑えることを目的に開発されました。Keystoneを使用することで、コストと使用量を正しく揃え、適切に予算を立て、余分なストレージの購入やオーバースペルビジョニングを抑えて、柔軟性とスケーラビリティを高めることができます⁶。

2 ネットアップ、「Cloud Volumes ONTAP Feature Spotlight: Storage Efficiency Case Studies」(2019年10月)

3 ネットアップ、「Consolidate Distributed File Servers with Global File Cache」(2020年)

4 ネットアップ、「Simplify and automate virtual desktops」(2021年)

5 ネットアップ、「Spot by NetApp delivers availability, automation, and cost savings」(2020年9月)

6 ネットアップ、「NetApp Keystone」(2021年)

SANの刷新に関するベストプラクティス

多くの企業では長い間、データ管理環境のバックボーンとしてSANが利用されてきました。データは企業の生命線とも呼べる存在です。その管理のためのプラットフォームを変更することに、不安を感じるのも無理はありません。ただし、過去2～3年の間にテクノロジーが一足飛びに進化したのも事実であり、すでにSANの刷新を検討すべきタイミングが来ています。手始めに、次の質問に答えてみてください。

- ビジネスを前進させるために、必要なアプリケーション パフォーマンスを得られているか
- データセンターの経済性は適切な方向へと向かっているか
- 既存のSANはビジネス ニーズの変化に対する適応性を備えているか
- SANの保守コストは増大しているか

前述の質問に答えることにより、ほとんどの企業は、自社のSANが時代遅れとなっており、刷新が必要であることに気が付きます。

ネットアップは、SANの刷新をあらゆる段階でサポートいたします。ネットアップはこれまで、あらゆる業界とあらゆる規模のSANの刷新プロジェクトを手掛けてきました。その経験から得たベストプラクティスを適用し、BrocadeとVMwareとともに、NVMe（Non-Volatile Memory Express）をエンドツーエンドでサポートする最新のSANソリューションの設計から構築までをお手伝いいたします。

ネットアップのストレージ ソリューションは、NetApp ONTAPの一部として提供されるNetApp SnapMirror® Business Continuity（SMBC）の高度な機能を通じ、**ビジネス継続性を標準でサポート**します。シンプルかつ高速できわめて信頼性の高いSMBCは、プライマリ データセンターとレプリケーション サイトとの間でアプリケーションを自動でフェイルオーバーすることにより、アプリケーションの可用性の維持とビジネスの継続性を実現します。

さらに、**アプリケーション対応の組み込みの複製データ管理機能**を使用することで、次のようなメリットがあります。

- オンプレミスのバックアップ データを使用した高速なバックアップとリストアや、NetApp ONTAPプラットフォームのみのリカバリ
- バックアップ コピー、分析用コピー、テスト / 開発用コピーといった、アプリケーションの複製データ管理の効率化
- Microsoft Exchange、Oracleデータベース、Microsoft SQL Server、SAP HANA、Windows、VMwareのサポート。また、MongoDB、IBM DB2、MySQL、SAP ASE、PostgreSQL、SAP MaxDBのカスタム サポート

最後に、安心のための機能として**バックアップ機能が標準装備**されており、パブリック クラウド内のオブジェクト ストレージにデータをバックアップできます。バックアップ データは（保管中から転送中まで）エンドツーエンドの暗号化によって保護され、データの格納先として、AWS、Azure、Google Cloud（全リージョン）を選択可能です。

2020年5月に、Brocade、VMware、ネットアップの研究者チームが行った調査によれば、ネットアップのNVMeソリューションは次のような幅広い重要な経済的メリットをもたらします。

40%の投資回収率（ROI）

6カ月の資本回収期間

消費電力と設置スペースに関する**143,000ドル**の経費削減

管理コストに関する**277,000ドル**の経費節減⁷

業界での高い評価

ネットアップは、2020年のGartner Magic Quadrant for Primary Storage Arraysにおいて、プライマリ ストレージ アレイの「リーダー」に選ばれました⁸。さらに、Gartnerが2020年に作成した『Critical Capabilities for Solid-State Arrays』レポートでは、4件中3件のユースケースで最高ランクに位置づけられています⁹。



Gartner does not endorse any vendor, product or service depicted in its research publications and does not advise technology users to select only those vendors with the highest ratings or other designation. Gartner research publications consist of the opinions of Gartner's Research & Advisory organization and should not be construed as statements of fact. Gartner disclaims all warranties, expressed or implied, with respect to this research, including any warranties of merchantability or fitness for a particular purpose. GARTNER is a registered trademark and service mark of Gartner, Inc. and/or its affiliates in the U.S. and internationally and is used herein with permission. All rights reserved.

8 Gartner, Magic Quadrant for Primary Storage Arrays (2020年11月30日)、Santhosh Rao, Roger W.Cox, Joseph Unsworth, Jeff Vogel

9 Gartner, 『Critical Capabilities for Solid-State Arrays』(2020年12月1日)、Jeff Vogel, Roger W.Cox, Joseph Unsworth, Santhosh Rao

10 NetApp All Flash FAS (ファブリック接続型ストレージ)

ネットアップ ソリューションによるSANの刷新に関するお客様の声

「NetApp AFFはとにかく素晴らしく¹⁰、IOPSのパフォーマンスがきわめて高いだけでなく、ストレージ効率の面でも非常に優秀です。当社はこの製品を使用して約1年になりますが、AFFをSANとして導入し、数百のVMを運用しています。これまで大きな障害は一切経験していないので、他のパートナー企業にも、この製品を強くおすすめしたいと思います」

ー 小売業、インフラ担当シニア マネージャー

「ネットアップのAFFシステムは、信頼性と安定性に優れた堅実な製品です。アクティブ / アクティブ アーキテクチャにより、ビジネス アプリケーションを安心して実行することができます」

ー サービス業、インフラ / オペレーション担当マネージャー

「ネットアップのフラッシュ システムは非常に優れたストレージ アレイで、ストレージのプロビジョニングと管理の基本的なスキルさえあれば運用できます。ローリング アップグレードも、大規模なシステム停止を発生させることなく、きわめてシンプルに実行可能です」

ー ヘルスケア業界、インフラ担当シニア エンジニア

適切なデータ ストレージ パートナーの選択

レガシー環境から最新のプラットフォームへ自信を持って移行するには

企業のデータはオンプレミス環境やクラウド内のさまざまな場所に格納されています。こうしたデータから最大限の価値を引き出すには、最新のインフラを構築することが効果的です。ただし、移行プロセスにはシステム停止を伴うことがあり、複雑で時間がかかるうえにリスクも生じます。事実、Gartnerの予測では、50%を超えるデータ移行プロジェクトが当初の予算やスケジュールを超過し、戦略や実施方法の不備によってビジネスに悪影響を及ぼすとされています¹¹。それだけでなく、79%の組織が、予期せぬ問題のためにクラウドからワークロードを引き揚げ、元の環境に戻しているというEnterprise Strategy Groupの報告もあります¹。

取り組みの無駄をなくし、データ移行に伴うコストやシステム停止を抑える最善の方法は、ネットアップのプロフェッショナル サービスを利用することです。20年以上にわたるデータ移行の経験に基づき、6ステップからなる実績ある反復可能な手法に従って、ネットアップのエキスパートが移行を確実に成功へ導きます¹²。

1. **スコープの定義**：ツール、要件、アーキテクチャに関する戦略を立てます。
2. **着手**：チームを編成し、プロジェクトの計画を作成します。
3. **発見**：現在の環境を評価し、データを分析して分類します。
4. **設計**：サービスの作業明細を作成して移行計画をまとめ、前提条件とスケジュールについて話し合います。
5. **実施**：開発ツールの使用を開始し、旧プラットフォームから新プラットフォームに切り替えます。さらに、新しい環境が計画どおりに動作することを確認し、移行済みの全データを検証します。
6. **完了**：移行内容を文書化したものを引き渡し、Knowledge Transfer（製品説明）を実施して、プロジェクトの完了を確認します。

表1：ネットアップ データ移行サービスの実際の成功事例

米国の大手金融機関	グローバルな石油ガス企業	グローバルな金融サービス プロバイダ	米国の大手小売企業	ヨーロッパの大手金融機関
EMCのシステムから、80TBのデータをわずか2カ月あまりで移行（これは顧客の想定を80%上回るスピード）	データ損失も破損もなく、5PBのデータをネットアップに移行	5PBのデータをFlexPod®に移行。業務の中断は最小限に抑えられ、競合企業のソリューションへの移行を想定してその企業から提示された移行期間よりも、10日間短く作業を完了	パフォーマンスの問題を一切生じさせることなく、400台以上のSANホスト、3,000以上のLUN、180TBのデータ（480以上のファイル共有）、3億個のファイルを、わずか4カ月でネットアップに移行	4億600万個以上のファイルと1万500以上のファイル共有を、わずか10週間でネットアップに移行

11 IT Convergence、『Data Migration Planning and Best Practices』

12 ネットアップのEブック、『NetApp Data Migration Services』

次のステップ

ストレージの刷新に関し、皆さんには複数の選択肢があります。1つは従来のストレージベンダーを使い続け、スケーラビリティや機能が限られた統合データプロテクション、未熟なクラウドサービスに甘んじて、運用の複雑化やデータのサイロ化、ベンダーロックイン、柔軟性の阻害をさらに助長することです。そうしてもう1つが、ネットアップソリューションによって、手持ちのデータからさらなる価値を引き出すことです。ネットアップを選択すれば、自社のデータを適切に管理すると同時に、対費用効果に優れた長期的なクラウド戦略を策定することができます。

ネットアップソリューションは、単にデータセンターを刷新する以上の成果をもたらします。

- クラウドへの移行に対する包括的なアプローチ
- サーバレスの導入とエッジ / IoTテクノロジー
- OPEX（運用コスト）からCAPEX（設備投資）へのコストモデルの移行
- クラウド移行の全体的な成功に重大な影響を及ぼす、動的に調整可能なクラウドストレージソリューション
- 総所有コスト（TCO）を25%以上削減可能なクラウドソリューション
- インフラとデータベースソフトウェアのコスト削減

お客様のデータセンターの迅速な移行とリスクの軽減、移行に伴うシステム停止の解消または最小化、クラウド対応のデータセンターの実現をネットアップのエキスパートが支援します。ネットアップでは、Dell環境からの無料移行プログラムを実施中です。詳しくは以下のリンクからお問い合わせください。

ネットアップという選択。

面倒な移行を見直すなら、今がチャンス

<https://www.netapp.com/ja/dell-vs-netapp/>



ネットアップについて

ジェネラリストが多い世界で、ネットアップはスペシャリストとしての存在感を示しています。お客様がデータを最大限に活用できるようにすることを1つの目標として、支援に全力を注いでいます。ネットアップは、信頼できるエンタープライズクラスのデータサービスをクラウドにもたらし、またクラウドのシンプルな柔軟性をデータセンターにもたらし、業界をリードするネットアップのソリューションは、さまざまなお客様の環境や業界最大のパブリッククラウドに対応します。

クラウド主導のData-Centricなソフトウェア企業であるネットアップは、お客様に最適なデータファブリックの構築をサポートし、クラウド対応をシンプルに実現し、必要なデータ、サービス、アプリケーションを適切なユーザーにいつでも、どこからでもセキュアに提供できる唯一のベンダーです。詳細については、www.netapp.com/jp/をご覧ください。



© 2021 NetApp, Inc. All rights reserved. NetApp、NetAppのロゴ、<https://www.netapp.com/company/legal/trademarks/>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。NA-572-0421-jaJP